

主 題：さばきも神の恵み

聖書箇所：コリント人への手紙第一 5章9－13節

今日はまず初めにⅠサムエル4：10－18を見ましょう。「こうしてペリシテ人は戦ったので、イスラエルは打ち負かされ、おのおの自分たちの天幕に逃げた。そのとき、非常に激しい疫病が起こり、イスラエルの歩兵三万人が倒れた。：11 神の箱は奪われ、エリのふたりの息子、ホフニとピネハスは死んだ。：12 その日、ひとりのベニヤミン人が、戦場から走って来て、シロに着いた。その着物は裂け、頭には土をかぶっていた。：13 彼が着いたとき、エリは道のそばに設けた席にすわって、見張っていた。神の箱のことを気づかっていたからである。この男が町には行って敗戦を知らせたので、町中こぞって泣き叫んだ。：14 エリが、この泣き叫ぶ声を聞いて、「この騒々しい声は何だ。」と尋ねると、この者は大急ぎでやって来て、エリに知らせた。：15 エリは九十八歳で、その目はこわばり、何も見えなくなっていた。：16 その男はエリに言った。「私は戦場から来た者です。私は、きょう、戦場から逃げて来ました。」するとエリは、「状況はどうか。わが子よ。」と聞いた。：17 この知らせを持って来た者は答えて言った。「イスラエルはペリシテ人の前から逃げ、民のうちに打たれた者が多く出ました。それにあなたのふたりの子息、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました。」：18 彼が神の箱のことを告げたとき、エリはその席から門のそばにあおむけに落ち、首を折って死んだ。年寄りで、からだが重かったからである。彼は四十年間、イスラエルをさばいた。」。ここには祭司エリとその息子たちの最期がどのようなものであったかが教えられています。エリは旧約時代、神に多いに用いられたあのサムエルを立派に育て上げた有能な祭司であり、教師であったのですが、このみことばは、彼の晩年が非常に悲しいものであり、非業な最期を遂げたことが記されています。しかも、これは神によってあらかじめ預言されており、「神のみこころ」でもあったのです。聖書にはその理由もはっきり書かれています。Ⅰサムエル2：12－17「さて、エリの息子たちは、よこしまな者で、主を知らず、：13 民にかかわる祭司の定めについてもそうであった。だれかが、いけにえをささげていると、まだ肉を煮ている間に、祭司の子が三又の肉刺しを手にしてやって来て、：14 これを、大なべや、かまや、大がまや、なべに突き入れ、肉刺しで取り上げたものをみな、祭司が自分のものとして取っていた。彼らはシロで、そこに来るすべてのイスラエルに、このようにしていた。：15 それどころか、人々が脂肪を焼いて煙にしないうちに祭司の子はやって来て、いけにえをささげる人に、「祭司に、その焼く肉を渡さなさい。祭司は煮た肉は受け取りません。生の肉だけです。」と言うので、：16 人が、「まず、脂肪をすっかり焼いて煙にし、好きなだけお取りなさい。」と言うと、祭司の子は、「いや、いま渡さなければならぬ。でなければ、私は力づくで取る。」と言った。：17 このように、子たちの罪は、主の前で非常に大きかった。主へのささげ物を、この人たちが侮ったからである。」、エリの息子たちは残念ながら神を軽んじる者たちでした。そのことを父親である祭司エリは知っていたにも関わらず、彼は神の前に正しい対処をすることができませんでした。22－25節に「エリは非常に年をとっていた。彼は自分の息子たちがイスラエル全体に行なっていることの一部始終、それに彼らが会見の天幕の入口で仕えている女たちと寝ているということを知った。：23 それでエリは息子たちに言った。「なぜ、おまえたちはこんなことをするのだ。私はこの民全部から、おまえたちのした悪いことについて聞いている。：24 子たちよ。そういうことをしてはいけない。私が主の民の言いふらしているのを聞くそのうわさは良いものではない。：25 人がもし、ほかの人に対して罪を犯すと、神がその仲裁をしてくださる。だが、人が主に対して罪を犯したら、だれが、その者のために仲裁に立とうか。」しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが主のみこころであったからである。」とあります。なぜそのようなことになってしまったのでしょうか？2：29にはエリに対して主からのことばがあります。「なぜ、あなたがたは、わたしが命じたわたしへのいけにえ、わたしへのささげ物を、わたしの住む所で軽くあしらひ、またあなたは、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうち最上の部分で自分たちを肥やそうとするのか。」、エリは神よりも息子たちを愛し、必要な戒めを与えてこなかったからです。3：13にさばきのことばがあります。「わたしは彼の家を永遠にさばくと彼に告げた。それは自分の息子たちが、みずからのろいを招くようなことをしているのを知りながら、彼らを戒めなかった罪のためだ。」エリは度々息子たちに忠告していましたが、十分ではなかったのです。

私たちはみことばが教える通りに、罪に対して正しい対処をするべきです。前回、この前の箇所から私たちが学んだことは、クリスチャンだと言いながら平気で罪を犯し続けている人たちに対して、教会はどのように対処するべきかということでした。厳しく対処する必要があるのです。決してその罪を見て見ぬ振りをしたり、なおざりにしてはならないのです。教会にはそれが重要です。コリント教会に起こっていた様々な問題は、そのような罪に対して正しく対処しなかった結果でもあるのです。

そして、私たちがもう一つ覚えるべきことは、私たちには家族を導くという責任が与えられているということです。先週、私たちは夫婦について学びましたが、教会は家族の延長線上にあるのです。なぜなら「教会とは神の家族の集まり」だからです。家族を治められない人は神の家族である教会を治めることはできないのです。私たちが親として、また、先に救われた者として、後に続く者たちの罪を指摘

し、矯正し、断固としてその罪を排斥して行くことは、その者を永遠の救いへと導くために、また、クリスチャンとして成長させるために必要であることを教えて行くためです。

今日は、実際にパウロがさばくべきだといった罪の内容と、それらにどのように対処するのかを学んでいきます。

5 : 9 - 13 「私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。:10 それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだとしたら、この世界から出て行かなければならないでしょう。:11 私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてはいけない、ということです。:12 外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。:13 外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい。」

## クリスチャンたちがさばくべき罪とは？

### 1. 不品行な者

これは性的な罪を犯し続けている者のことです。原語を見るとこのことばは「ポルノ」ということばの語源にもなったことばで、「売春婦と関係する男、不道徳な性生活を常習とする者」という意味です。9節にあるように、パウロは以前、そのような者とは交際しないようにとコリント教会に書き送りました(9節)。しかし、それはコリント教会に誤解を招いてしまっていたのです。教会のメンバーたちは10節にあるとおり「この世の中の不品行な者」、つまり、教会外の一般の人たちの中の「不品行な者」たちとの交際をパウロは禁じているのだと理解していたのです。前にも学んだように、確かに、コリントは性的な不道徳がはびこっていた町でした。実に多くの人たちが平気で乱れた生活をしていたのです。そのような人たちと交際してはいけないとなると、実際に当時のコリントの町では暮らして行くことはできなかったでしょう。10節には「偶像を礼拝する者」とあり、そのような人たちまで入れるとなおさらです。しかし、パウロが言いたかったのは、一般社会の人たちのことではなく、教会内でのことでした。クリスチャンだと言いながら平気で不品行の罪を犯している、そのような者とは交際しないようにと言うのです。前回に学んだとおり、私たちは教会内でそのような罪を犯している者を、いや、その罪そのものを排除する必要があります。

ある人は「私だってそのような罪を犯すことがある。その人たちだけを責められない」と言うかもしれませんが、確かに、イエスもある時このように言われました。「『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」(マタイ5:27-28)。イエスは心の中で犯す姦淫の罪について教えています。神は私たちがどのようなことを考え、どのような動機で行なっているかをすべてご存じです。パウロもこのように言っています。少し前に学んだところです。Iコリント4:5「ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです。」と。神は私たちのすべてを知っておられます。心の中に至るまでも。だから、私たちが完全にさばくことができになるのです。また、Iコリント6:9-10を見ると「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、:10 盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしめる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。」とあり、不品行な者は神の国を相続することができない、つまり、救われていないと言われています。では、姦淫の罪や不品行の罪を心の中でほんの一瞬でも犯す人は救われていないのでしょうか？これはほんの一瞬や、反射的に罪を犯してしまった場合を指すものではありません。このことばは習慣的な行動を表わすからです。不品行の罪を犯し続け、その罪の生活がその人の生き方そのものになっていることを示しているのです。そのような人は救われていないし、必ずさばかれると教えているのです。

### 2. 貪欲な者

このことばは「より多く」と「持つ」の合成語で、決して満足しない人のことです。持てば持つほどさらなる欲に振り回されて、ますます貪欲になって行く人のことです。最高の知恵を与えられたソロモンは伝道者の書の中でこのように教えています。5:10「**金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた、むなししい。**」神を信頼し神は私たちのすべての必要を満たしてくださるという約束を信じているはずのクリスチャンが、貪欲であるというのはおかしいことです。神に仕えているはずのクリスチャンが、富や欲を神以上に考えるというのは明らかに救われた者の姿ではありません。パウロが「交際してはいけない」と言ったのは、彼らの言っていることと行ないとに大きな

ギャップがある人のことです。私たちが教会内で問題にするべきことは、彼らの信仰告白と行ないとは大きく食い違っていることです。イエスを信じ救われた人は明らかに変わるはずです。それはみことばがはっきり教えていることです。すでに学んだIコリント3：7を見ると「**それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。**」とあるように、神ご自身が私たちを成長させてくださるのです。ひとり子イエスのいのちまで捨てて私たちを救ってくださった全能なる神が、私たちを成長させないで放っておくなどということがあるのでしょうか？パウロはピリピ1：6で「**あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。**」と言い、救われたクリスチャンは必ず成長することを教えています。

いかがでしょうか？あなたの罪は確実に赦されていますか？あなたの生き方はあなたが救われていることを証しているのでしょうか？それなら、確実に変えられていっているはずですよ。なぜなら、救われている人は何よりも神を第一として神に従って行こうとしているはずだからです。

私たちがそのような信仰告白と行いとに食い違いのある人に警告を与え、ある時には罰を与えるとき、彼らは自分の信仰に問題があることに気がきます。自分の救いに疑問をもちます。それが前回学んだところです。Iコリント5：3-5「**私のほうでは、からだはそこにいなくても心はそこにおり、現にそこにいるのと同じように、そのような行ないをした者を主イエスの御名によってすでにさばきました。：4 あなたがたが集まったときに、私も、霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、：5 このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。**」すでに「さばきました」とあります。交わりを絶ったのかもしれませんが、それは、彼の肉が滅ぼされるため、しかし、霊が主の日に救われるためだと言います。

### 3. 酒に酔う者

ここで注意されているのは酒を飲むことではなく酒に酔うことです。酒を飲むことは必ずしも罪ではありません。聖書全体を見ても「酒を飲んでほろ酔い気分になる」とは記されていません。また、2000年前のこの当ても、イエスを初めとして弟子たちもみな、ぶどう酒などを口にしましたはずですよ。ですから、聖書が教えているのは酒を飲んで酔ってしまうことに関して警告されているのです。実際にここで使われていることばも、単に「酒に酔ってほろ酔い気分になる」という状況を表わすことばではなく、「酔っ払い」「飲んだくれ」ということばなのです。酒に酔って我を忘れてしまって、冷静な判断ができないとか、また、酒がないと生きて行けない、そのような状況を禁じているのです。

より成長したクリスチャンは神の前に何が正しく、何が神に喜ばれるのかを考えて行動します。私たちは本当に価値があるのは何かを考えるべきです。パウロはこのように言っています。6：12「**すべてのことが私には許されたことです。しかし、すべてが益になるわけではありません。私にはすべてのことが許されています。しかし、私はどんなことにも支配されはしません。**」と。本当に救われ霊的に成長しているクリスチャンはそのように選択します。それが禁じられていなくても、益にならないと考えるなら、断固それをしないのです。確かに、酒に酔っても、アルコール中毒になっても、当ても、今もそうですが、法に触れるわけではありません。しかし、この世は赦しても教会はそれを認めない、この世が何ら問題にしなくても、教会は問題にしなくてはならないのです。

⇒ここまで、1～3はおもに自分自身に関する問題です。Iコリント6：18には不品行の罪に関して「**不品行を避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、不品行を行なう者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。**」とあります。確かに、不品行の罪は自分のからだを汚す行為であるゆえに、聖霊の住まれる宮を汚す行為でもあります。しかし、重要度に多少の違いはあっても、不品行も食欲も酒に酔う行為も、それらに共通している自分自身のことであるということです。ある人は「だれにも迷惑をかけていないのだからいいじゃないか」と言うかもしれませんが、しかし、目的をもって私たち人間を造られた神が、私たちにいのちと健康を与えてくださっている神が、それを良しとはされないということを私たちは覚えるべきです。

### 4. 人をそしめる者

これは「他の人のことを悪く言ったり、簡単に非難したりけなしたりする行為」です。これと、次のものは他の人との人間関係における罪の問題です。「**心の貧しい者は幸いです。**」（マタイ5：3）とイエスが言われたように、救われている者は自分自身の霊的貧しさを知っています。いかに自分が神の前には霊的に乏しい者であるかを知っているのです。また、ガラテヤ6：3に「**だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。**」とあるように、むやみに人を非難、攻撃するのは信仰者のあるべき姿ではありません。他の人を軽々しく批判して兄弟姉妹を傷付けることは救われた者の姿ではないのです。

私たちが意識して「しなければならぬこと」を考えて見ましょう。私たちはともすればだれかの悪口を口にして、その人の評判を下げようとしたり、ゴシップで盛り上がったたりしてしまいます。しかし、

そのような行為はみことばが禁じていることを私たちはしっかり覚える必要があります。そのような話題が出た場合私たちは、1) そのような話題を止めることを伝えるか、2) その場を離れるべきです。そして、3) もしそのことが事実であるなら、愛をもってそのことを相手に伝えるべきです。単なるゴシップや愛のない批判で終わってしまうなら、私たちは救われた者がもっているはずの兄弟愛を欠いてしまっているのです。

## 5. 略奪する者

これだけは当時も今も明らかに犯罪です。原語では「略奪する者」という意味の他に「強欲な」という意味もあります。実はこの当時、コリントの町には非常に多くの泥棒がいたのです。コリント教会の中にクリスチャンでありながら泥棒をしているような者がいたのかもしれませんが。少なくとも、パウロはその可能性を考えてこの箇所を記しているように見受けられます。万が一教会内にそのような者がいるなら、大変です。本人の信仰の問題はもちろん、教会の証にも関わるからです。

⇒すべての罪は神に対するものですが、この4～5は人間関係における問題のことです。そして、最後は、直接神に対する罪です。

## 6. 偶像を礼拝する者

クリスチャンだと言いながら、偽りの、人の手で作られた「神の像」を拝み、それにより頼むことは本当の信仰者の姿ではありません。そのような間違った、本来あるべきでない信仰者の状態、それを行ない続ける者に対して、教会は厳しく対処するべきです。これは彼らが本当に救われるためにぜひ必要なことです。

イエスが言われたにせ預言者を見分ける方法とは何だったでしょう？それは、**行ない**を見ることでした。今日学んできたパウロがさばくべきだと言った罪の内容は、この世では犯罪とは認めてはいないものです。しかし、教会はそれを重要視します。というのは、行ないを見ることによって、彼らの救いの有無、つまり、永遠が分かるからです。イエスもにせ預言者たちを見つけることについてこのように言われました。マタイ7：15－20「**にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。：16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。：17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。：18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。：19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。：20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。」**。この「実」が「行ない」であることは明らかです。私たちは先に救われた者の責任として、何よりもまず、自分たちが神を第一として、そして、良き信仰の証し人として生きて行く必要があるのです。教会内におけるさばきは、神が私たちをより正しく歩ませるために定めてくださったものであり、いい加減な信仰で満足している者に警告を与えるものなのです。神がこのような「さばき」を行なうことを教会内に与えてくださったのは、それをもって、多くの人が神を知り、自分を知るためです。そして、一人でも多くの者たちが神の前に正しい行ないをして行くことを神は願っておられるのです。

黙示録3：14－21を見て終わらしましょう。「**また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。：15 「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。：16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。：17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、衰れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。：18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精練された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。：19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。：20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたき。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」**。神がこのようにされるとおり、私たちも同じようにあるべきです。